

ルクセンブルク経済・金融情勢（2018年8月）

1 統計関連

- 2018年8月のインフレ率は年率で1.62%（前月1.46%）（9月5日付統計局プレスリリース）
- 2018年7月の失業率は5.5%（前月5.5%，前年同月6.0%）（8月20日付統計局及び職業安定所プレスリリース）
- 当国中央銀行（BCL）が当国の経済状況の観測を行い、実質GDP成長率は本年3.9%，来年3.6%になる可能性がある事を明らかにした。世界経済全体の成長が落ち着く傾向が見られること、株式市場からの刺激が少ないことが原因。また、当国の消費者物価指数は、エネルギー価格、子供に係る補助政策の変更等が原因で2017年半ばより少しずつ鈍化。インフレ率は、本年は1.4%，2019年は1.8%になる予測。原油価格のリバウンドに伴いインフレの鈍化は収まるため。なお、基調的なインフレ率（コア指標）は、よりよい経済状況、より高い給与、そしてより輸入が多くなることから、歴史的な数字の域に達しつつある、としている。（8月5日付 **Luxembourg Times** 紙）
- 消費者物価の上昇に従い、給与と年金が自動的に調整される当国の仕組み（「インデックス制度」（indexation/indexregelung））の発動により、8月1日付で当国の給与及び年金支給額が一律に2.5%上昇した。これに伴い、同日以降の最低賃金は2048.54ユーロ（時給11.84ユーロ）となった。（当館注：前回のインデックス制度発動は2017年1月で、この時点で当国の最低賃金は月1998.59ユーロ（時給11.55ユーロ）になっていた。）（8月1日付 **Tageblatt** 紙）
- 当国統計局は、当国で生活における最低限必要なニーズを満たしつつ、最低限の交友なども可能にする、「一般的な生活（a decent life）」にかかる月あたりの費用を試算し、4人家族（うち2人は10代の子供）なら月4079ユーロ（うち1542ユーロは住宅費（100平方メートル、ただしルクセンブルク市外）、子供のいないカップルは月2707ユーロ、14歳の女子がいる母子家庭の場合は2724ユーロ、10歳の男子がいる父子家庭なら2621ユーロとした。いずれの場合も生活費で最もかかるものは住宅費であり、およそ収入の3分の1以上を占めているとしている。（8月2日付 **Le Quotidien** 紙）
- 当国統計局によれば、当国で働く越境労働者のうち、ベルギーからの越境労働者の平均年間収入は56,532ユーロ、ドイツからの越境労働者の平均年間収入は53,956ユーロ、フランスからの越境労働者の平均年間収入は46,756ユーロである。（8月2日付 **Luxembourg Times** 紙）
- ルクセンブルクからの越境労働者は12,490人であるとされているが、実際に国境を越えてフランス、ベルギー、ドイツで働いている越境労働者は1,451人のみである。このほか越境労働者の88%は、ルクセンブルク国内のEU機関（欧州委員会、欧州

投資銀行，欧州司法裁判所，ヨーロッパンスクール等）或いは非欧州系の国際機関（欧州航空航法安全機構，E F T A司法裁判所，N A T O保守整備補給機関等）に働いている人々である。これらの国際機関及びE U機関は治外法権を有しているため，そこで働く人々がルクセンブルクに住んでいたとしても，国外で働いているものとして計上されている。（8月3日付 **Le Quotidien** 紙）

● エネルギー価格の減少により，世帯用電気料金の価格が，年間4000キロワット時使用した場合，2016年の679ユーロから2017年は647ユーロに下がった。当国は主な電力を輸入でまかなっており，ドイツから4302ギガワット時，フランスから888ギガワット時，ベルギーから532ギガワット時を輸入している。なお，ベルギーに対して52ギガワット時の電力輸出も行っている。（8月7日付 **Luxembourg Times** 紙）

● 欧州統計局によれば，当国における精肉の価格は欧州平均よりも41%高く，当国は欧州内で最も精肉価格が高い国となった。欧州全体ではオーストリア，デンマーク，スウェーデン，フランス，ベルギー，ドイツ（順不同）などの計12か国の精肉価格が平均価格を超えた。一方でポーランドは平均よりも43%下回った価格となっており，欧州内で最も精肉価格が安い国となった。2015年，当国における農産業に従事している人口は総労働者人口の0.8%。平均年齢は40歳以下で，当国において平均年齢が最も若い産業の一つ。（8月19日付 **Luxembourg Times** 紙）

● 当国観光局（**Luxembourg for Tourism**）によれば，当国の観光業は2013年より安定した成長を見せており，当国のGDPの6.5%を占め，およそ2万人の労働者が従事している。本年上半期に国内のホテルで1泊以上した旅行者は前年同期よりも4%増加し，キャンプサイトなどへの予約も15%増加，ユースホステルの利用も10%増加した。当国への旅行者を魅了する観光地としては主に，ベタンブール市にある動物園（**Parc Merveilleux**），ヴィアンデン城，現代美術館（**MUDAM**），ボックの砲台，ルクセンブルク市美術館等がある。**MUDAM** に関しては，前年同時期よりも42%増の6万人の来館者となった。（8月8日付 **Luxembourg Times** 紙，**Chronile.lu**）

● パートタイム労働者の割合が過去15年で11.6%から19.4%に増加した。また，働く女性の割合は安定した増加を見せている一方で，働く男性の割合は81.2%から75.4%に減少した。なお，20歳から24歳の間の若者で働いている人の割合は53%から42.1%に減少した。（8月13日付 **Luxembourg Times** 紙）

● 欧州統計局によれば，本年上半期における当国の総輸出額は73億ユーロとなり，前年同時期よりも1%増となった。対E U内輸出額は62億ユーロと4%増であったのに対し，対E U外輸出額は11億ユーロと10%減となった。当国の貿易支出は29億ユーロの赤字で，前年同時期の32億ユーロの赤字から改善された。（8月16日付 **Luxembourg Times** 紙）

● 欧州統計局によれば，当国居住者はE Uの他の国よりも休暇旅行先で使う金額が高い。2016年のデータによれば，当国居住者は一回の旅行で平均768ユーロ使う。これは

EUの平均の336ユーロを上回る金額である。(8月21日付 Luxembourg Times 紙)

2 政府等関連

- 経済省は、2014年から2018年の間に計4.4億ユーロの補助金を各企業に出しており、その結果国内の民間投資は15億ユーロとなった。シュナイダー副首相兼経済相は2013年から2018年の間に宇宙開発イニシアチブ (SpaceResource.lu)、ハイパフォーマンスコンピュータ、第三次産業革命等多くの発展があったことを述べ、さらに2017年より、高質で持続可能でありつつ、当国経済に実質的付加価値をもたらすような外国企業の誘致を進める政策が実行されたことを明らかにした。また、2022年までの5年間で、中小企業を支援するための資金8900万ユーロ、観光業を発展させるための6000万ユーロが政府予算に組み込まれていることを明らかにした。(8月10日付 Chronicle.lu)
- 当国政府は、欧州委員会が示したフランス系エネルギー会社 Engie 社に対し1.2億ユーロの税金を徴収するべきとの決定に対して、当時の法律はEU法に適合しているものだったとして、決定の取消訴訟を提起する。(8月31日付 Luxembourg Times 紙)

3 企業関連

- カーゴルクス社は Gedios UK 社と協同で、Gumball 3000 レースのためにイタリアのボローニャから大阪へ29台のレースカーを輸送した。また、カーゴルクス社は JIT-EX 社と協同してルクセンブルクからジャカルタ (インドネシア) へ、アジア大会に出場する予定の非常に高価な競走馬を輸送した。(8月10日、21日付 Luxembourg Times 紙)
- Foetz 市にある製造センターにて、Ujet 社が10月より、電気スクーターの製造を始める予定。同社のモットーは「街へは車で、街ではスクーターで (by car to the city, by scooter in the city)」である。同社は2015年にロシア系ナノチューブ製造企業である Oscial が設立し、2016年に同製造センターを築いた。(8月28日付 Luxembourg Times 紙)

4 大臣等動向

- 23, 24日 グラメーニャ財務相、ハンブルク (ドイツ) にてドイツ語圏財務相会合に出席。(8月22日付財務省コミュニケ)

※当国政府の公開資料や各種報道などの公開情報を取りまとめたもの